

「山野小学校の石井鎌手踊り伝承活動の取組」

1 学校名

伊佐市立山野小学校

2 学年・人数

6年生（16人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年4月～11月 山野小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

平成30年11月10日（土） 山野小学校学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称

石井鎌手踊り（いしかまんでおどり）

(2) 由来

1590年豊臣秀吉が天下統一後の朝鮮出兵で島津義弘公が帰ってきた時に、伊佐市山野地区の住民が、太鼓踊りなどで歓迎し出迎えたのが始まりとされている。この頃から鎌手踊りも始まったとされている。終戦後（昭和25年頃）から写真に残されており、その頃は「六尺棒に六尺棒」「六尺棒に鎌」の踊りだった。また、1950年頃には男性不足から女性が踊ったこともある。現在の「鎌と長刀」のスタイルは1960年頃から踊られているようである。

(3) 構成等

鎌2人，長刀2人の4人組が4グループ，合計16人で踊る。鎌は柄の長さ1尺5寸位，柄のつけねのカネには房をつける。長刀は柄が5尺2～3寸で房はつけず，どちらも檜で作る。服装は，白浴衣を着け，腰を少しつぶり，手甲，脚絆，白足袋，武者ワラジ，タスキ，鉢巻姿である。歌詞は前記「今こそ参る」の他に①清めの雨は，三度パラパラ②焼け野の雉は岡の瀬にすむというものがあり，引端の道歌は「今こそかへる。神にモノメイ（物詣り）」というのがある。

5 保存会や地域との連携の具体

3年前から総合的な学習の時間を活用し，郷土芸能に関する学習についての取組を進めてきた。保存会は現在，12人ほどの会員で組織されているが，会員の高齢化に伴い，存続か消滅かといった後継者問題に直面している状況であった。保存会の方々と連絡を取りながら，地域の伝統芸能の保存に向け，無理をせず長期的視野に立ち，取り組んでいく方向で共通理解している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の伝統芸能継承学習として、総合的な学習の時間の中で「守ろう山野の宝」というテーマのもと、年34時間の授業を設定した。

主な学習内容は以下のとおりである。

- (1) 課題を設定する。(2時間)
- (2) 保存会の方から踊りの歴史や伝承活動に対する願いを学ぶ。(4時間)
- (3) 踊りやたすきがけについて実際に指導を受ける。(8時間)
- (4) 調べたことをまとめる。(6時間)
- (5) 学習発表会で発表する。
- (6) 地域に伝わる伝統芸能の継承について学習をする。(8時間)

今後も地域と連携した学習が継続して展開できるように、3学期に、5年生への踊りを継承する時間(6時間)を設ける工夫を図った。

7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



【保存会の方々による指導】



【学習発表会での発表】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【参加児童】

山野の石井に伝わる伝統の踊りを学習発表会で披露することができた。覚えるまでが大変だったが、地域の方々が喜んで褒めてくださったのが嬉しかった。5年生にも引き継いでいきたい。

【保存会から】

保存会の会員が高齢化し、保存会の踊りの練習も限界を感じることもある。子どもたちが踊りを引き継いでくれることに心強さを感じる。地域の方々にも喜んでいただいている。これからも継承活動に協力していきたい。

【保護者から】

学習発表会で、子どもたちの踊りを見て感動した。地域に伝わる伝統芸能をこのような形で引き継いでいくのはすばらしい取組だと思う。

【教員から】

ふるさと教育の一環として、課題解決的な内容となるよう取り組んできた。この伝統芸能を学ぶことを通して、それを守り続ける人々の思いを知ることができたのは大きな収穫であった。